

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09020150

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	B	
単位施策	2 多面的機能の発揮	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	生活環境保全林維持管理事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	造林木の正常な生長の確保、保健保安林の機能向上		#N/A	
事業目標	生活環境保全林の適正な維持管理 下刈A=42.4ha	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	普通下刈 A=42.4ha 下枝払い 7,800本 ウッドチップ敷設 40m ²	普通下刈 A=8.48ha 下枝払い 2,600本 ウッドチップ敷設 20m ²	普通下刈 A=8.48ha 下枝払い 2,600本 ウッドチップ敷設 20m ²	普通下刈 A=8.48ha 下枝払い 2,600本	普通下刈 A=8.48ha	普通下刈 A=8.48ha
	事業費(千円)	10,874	2,300	2,474	2,300	1,900
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	10,874	2,300	2,474	2,300	1,900	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,651	2,218	2,433	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	4,651	2,218	2,433			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 普通下刈 A=8.48ha 下枝払い 2,600本 ウッドチップ敷設 20m ²	(実施内容等) 普通下刈 A=8.48ha 下枝払い 2,600本 ウッドチップ敷設 20m ²	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	普通下刈 A=8.48ha	普通下刈 A=8.48ha	普通下刈 A=8.48ha	普通下刈 A=8.48ha
		年度達成率	96%	98%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	20%	43%	43%	43%
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆			

事業名	生活環境保全林維持管理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	渡部 憲一

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	生活環境保全林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	下刈面積、下枝払い本数	
【抱える課題やニーズは】	苗木の周囲に雑草が繁茂し、また、樹木の枝が成長し陽光が遮られ、苗木の正常な生育に支障がある	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	雑草木に被圧される懸念がなくなるまで下刈を実施する(年2回) 樹木が順調に生育するよう下枝払いを実施する	① 下刈実施面積÷下刈計画面積	目標年度	平成26年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	適正な維持管理によって保健保安林の機能が向上し、町民の保健休養林として活用される		目標値	8.48 ha
			実績値	8.48 ha
			達成度	100.0 %
		② 下枝払い本数÷下枝払い計画本数	目標年度	平成26年度
			目標値	2,600 本
			実績値	2,600 本
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①維持管理の委託	苗木の正常な生育を図るため、生活環境保全林内の下刈・下枝払いを行う委託業務を実施		
	②環境整備の委託	生活環境保全林内の環境整備を行うため、ウッドチップを敷設		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	苗木の生育に必要なとなる陽光を確保するため、苗木の周囲に繁茂して苗木の生育に支障となる笹・草の刈払いや樹木の下枝払いを実施することで、植栽した苗木が順調に生育していくことから必要性が高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	森林資源内容の充実と生産力の増強が図られるとともに、森林の持つ多様な機能の高度発揮に寄与した。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	北海道が示す標準単価を参考にして下刈・下枝払い等の事業を実施していることから、事業コストは妥当である。また、下刈の実施回数を年2回とするなど、必要最低限の実施に努めている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	生活環境保全林は誰でも利用することができるので公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業の実施で、森林資源内容の充実と生産力の増強が図られるとともに、森林の持つ多様な機能が高度に発揮されることから、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
生活環境保全林を快適かつ安全に利用できるよう適切な維持管理を実施することで、保健保安林の機能向上が図られることから、継続して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止